



新潟大学医学部保健学科の魅力ある教育として、3年次生で実施するチーム医療実習を紹介します。チーム医療実習は、看護学生が医療者チームの一員となり、多職種との連携や協働を学ぶ実習です。今年度からチーム医療実習は新カリキュラムとなり、臨床での看護師長に同行して、師長業務を学ぶシャドーイング実習や模擬チームカンファレンスを取り入れました。

看護師長のシャドーイング実習で得た学び 病院の師長さんが看護師たちの働きやすさを第一に考え、多職種との連携を通じて職場環境を整えている姿に感銘を受けました。特に、師長さんが医師などの他職種と積極的に関わっており、意図的に看護師が働きやすい環境を作り出している点に驚きました。また、師長さんが看護師のスキルアップを支援するために、シフト調整や交渉し、看護師個々のキャリア形成を後押ししていることに感動しました。実習を通して、看護師長の役割の重要性と、チーム医療におけるリーダーシップについて学ぶ貴重な経験となりました。

模擬チームカンファレンスでの学び 模擬チームカンファレンスでは、看護師としての立場から患者や他職種とのコミュニケーションを実際に体験しました。その中で、患者を交えた場では、情報の伝え方を工夫する重要性とその難しさを学びました。また、看護師は患者と接する時間が最も長い職種であり、患者を観察し、他職種と情報共有する役割を担っていることに気づきました。看護師は患者とその家族、さらには多職種をつなぐ仲介役としても、重要な存在であると実感しました。

医学部保健学科看護学専攻3年 チーム医療実習5Aグループ 学生代表



看護ケアのロールプレイ場面



模擬チームカンファレンス

魅力ある教育紹介② ペラデニヤ大学グローバルヘルス交流プログラムに参加して

ペラデニヤ大学グローバルヘルス交流プログラムでは夏季休暇期間2週間スリランカに、学生を派遣し、大学や病院、JICAオフィスなどの見学を主体とした研修を実施しています。研修を通じて、グローバルヘルスに関する意識高揚・人材育成を図る教育プログラムです。（新潟大学の国際連携活動データベース <https://www.earnet.niigata-u.ac.jp/database/2176/>）

今年度、スリランカ短期学生派遣研修プログラムに参加し2週間スリランカに滞在しました。現地では、JICAの事務所や町にある病院を訪問しました。スリランカでは医療費が無料なため、病院には遠くから足を運ぶ患者さんであふれていました。廊下にあるストレッチャーの上で横になる人もいました。日本ではなかなか見られない光景です。確かに、そうした点でスリランカはまだ発展途上にあるのかもしれません。しかし、スリランカの人々が私たちを見つめる瞳から、この時代に私たち日本人が忘れてきている心の豊かさを感じました。それは医療に携わる医師・看護師も同じです。識字率が比較的高いといわれているスリランカの人々ですが、地方に行くと言葉が通じない人もいます。しかし病院で行われている看護を目のあたりにして、そうした患者さんと看護師の間においても心が通じ合っているように感じました。言葉や道具を使わずとも人に温かさを届けられる看護という仕事、そしてその看護を学ぶことに誇りを持ちました。

医学部保健学科看護学専攻3年 横山 侑美



見学先のキャンディホスピタルで実習
をしていた看護学生との1枚